

## 区市町村母子保健担当者へのアンケート集計結果

平成 15 年 6 月に厚生労働省が公表した「水銀を含有する魚介類等の摂食に関する注意事項」について、区市町村での取組状況及び住民の反応等について、アンケート調査を行った。

## 《 調査対象 》

東京都内の区市町村母子保健担当者

[回答者職種内訳：栄養士(51)、保健師(12)、事務(5)、食品衛生監視員(2)、医師(1)]

## 《 調査期間 》

平成 15 年 9 月 12 日から 9 月 26 日まで

## 《 調査方法 》

アンケートを区市町村母子保健担当者あて、郵送にて送付した。

## 《 調査結果 》

配布区市町村数	回答区市町村数
61 区市町村	54 区市町村 (70 施設)

- 1 平成 15 年 6 月 3 日に厚生労働省が公表した「水銀を含有する魚介類等の摂食に関する注意事項」(別紙 1)を知っていますか？

知っている	知らない
70	0

知っている場合には、何から情報を得たか？

国の通知	新聞記事	テレビ	その他
65	55	42	18

情報を得た「その他」の内訳

ホームページ(8)、都保健所(5)、雑誌(3)、ラジオ、専門誌、日本栄養士会

- 2 この公表の後、6 月 5 日に厚生労働省が公表した「水銀を含有する魚介類等の摂食に関する注意事項について(正しい理解のために)」(別紙 2)を知っていますか？

知っている	知らない	未記入
66	2	2

3 6月16日に厚生労働省のホームページに掲載された「水銀を含有する魚介類等の摂食に関する注意事項について（Q&A）」（別紙3）を知っていますか？

知っている	知らない
55	15

4 これらが公表された後、母子保健事業等でこれらの説明を行っていますか？

行っている	行っていない
60	10

行っている場合、何の事業で行っているか

母親学級等（57）、離乳食講習会（4）、妊婦対象の調理実習（2）、母子手帳交付時（2）  
成人式、栄養指導講習会、育児相談、1歳半健診、3歳児健診、乳幼児健診、各種健診  
消費者グループ連絡会、各種健康づくり講習会、魚介類販売業の講習会

行っていない場合、行っていない理由

- ・全く反応がなく、不安が感じられなかった。逆に全く知らない人に不安をあおることになりかねない判断した（一般的な食生活で該当すると考えられる人は、東京ではごくまれであり、その様な人はマスコミ報道等で自ら検索していると考えられる。）。
- ・質問があった場合は、正しい情報を提供する。食事状況の聞き取りにより、不安を招く実態ではないと判断したため。
- ・健康教育（集団指導）では、妊婦の方の不安をあおいでしまわないようにするため。なお、質問や相談があったときは、通知文を配布し、情報提供をしている。
- ・不安を持たせないため。問合せに対しては答えようと考えていた。新聞、テレビ等で情報は流れていたため、あえて事業では説明しなかった。
- ・元々魚の利用が少ないところに必要以上に不安をあおりたくなかった。
- ・具体的な説明を行うことで不安を抱かせないために、「食材の選定」で他の食材も含め国の情報を提供した。
- ・テレビ、新聞等の報道があり、住民の混乱を招くため。電話等の質問があった場合は説明した。
- ・質問が出たら話ができるようにしてあるが、「色々な食べものから栄養を取ってください。」と伝えているので、あえて話はしていない。
- ・問合せもなく、住民の不安感も少なかったため。
- ・電話の問合せがあった場合には回答している。本来、妊婦教室等で指導すべきかと思うが、含有量の最も多いものはクジラなどであり、あまり頻繁に食べるものではないので、かえって不安感を与えてもいけないと思い差し控えた。

5 住民の方から、「水銀を含有する魚介類等」について何か質問を受けましたか？受けた質問を教えてください。

受けた	受けたことがない
39	31

<妊婦から>

- ・対象の魚介類等を食べ過ぎた場合は、どうすればよいか。

- ・魚を今までたくさん（毎日）食べていたが大丈夫か。
  - ・第2子妊娠中、魚の取り方を減らした方がいいか。第1子の時はいわれてなかったが、大丈夫なのか。
  - ・今まで食べた分は胎児に影響しないか。
- 
- ・水銀について心配だが、どのくらい魚を食べたらよいのか。
  - ・魚をどの位の頻度で食べたらいいのか。
  - ・食べても大丈夫か。
  - ・魚の種類について詳しく知りたい
- 
- ・指摘を受けた魚以外食べていいのか。
  - ・新聞に載った魚以外の安全性、内容について
  - ・その他の魚介類摂取に関する不安
  - ・他の魚で大型のものは大丈夫か（出世魚（ぶり、スズキ等）のような魚）。
  - ・カジキマグロ以外のマグロには含まれていないのか。
  - ・マグロやキンメ、フカヒレ等を食べないようにしているが、それでよいか。
  - ・その他の魚（鮭、さんま等）にも水銀は含まれているのか。
  - ・肉類は大丈夫か。かまぼこは大丈夫か。
  - ・摂取頻度について
  - ・魚の食べ方について、水銀の件もあり心配だ。
  - ・食べて安心な魚の種類、量
- 
- ・水銀のことが気になっているが、カジキやキンメダイは食べない方がよいのか。
  - ・マグロ、メカジキ等はなるべく食べない方がよいか。
  - ・妊娠中、メカジキを食べてはいけないと聞いたが本当か。
- 
- ・マグロについて、ツナ缶について（量や回数など）
  - ・マグロは普段と同じ量を食べてよいのか。
- 
- ・大きい魚は水銀の危険性があるとのことだが、生でなければ大丈夫か。
  - ・調理法によって安全性は変わるのか。
- 
- ・マスコミ情報をどう受けとめればいいのか。
- 
- ・妊婦だけが対象になっている理由について
- 
- ・胎児への影響
- 
- ・授乳中の魚介類等の摂食について
  - ・母乳に移行するか。
- 
- ・テレビで外国では水銀に伴う魚介類の規制があるが、日本ではどうか。
- 
- < 妊婦以外 >
- ・母乳を介して水銀が子どもに入る不安（乳児の母親）
  - ・授乳中は心配ないのか。

- ・離乳食に使用する魚について（子育て中の母親）
- ・乳幼児はどうか。（保育園栄養士）
- ・魚を積極的に食べさせているが、子どもにとっても安全か。（幼児の母親）
- ・注意点など（魚の量、種類等）（子育て中の母親）
- ・摂食の回数等、カジキ等は安全かどうか。（乳児の母親）
  
- ・妊娠前にたくさん食べていたが、この子は大丈夫か。（乳児の母親）
- ・妊娠の可能性のある年齢の娘がいるが、魚を食べても大丈夫か。（娘を持つ母親）
- ・妊娠に気が付かないで、キンメなどたくさん食べていても大丈夫なのか。
  
- ・妊婦以外や子どもにとっては安全なのか。
- ・妊婦でない人は心配いらぬのでしょうか。
- ・内容について、老人の場合ではどうか。
- ・妊婦以外の方が食べても大丈夫か。他の魚は大丈夫か。
- ・妊婦でなくても食べるべきではないのか。
  
- ・対象の魚介類等を食べ過ぎた場合は、どうすればよいか。
  
- ・魚介類を食べるのは控えた方がよいか。
- ・食べたが大丈夫か。
- ・カジキマグロがお弁当に入っていたのを頻度多く食べていたが大丈夫か。
- ・魚種と水銀量
- ・キンメやカジキ以外は心配ないのか。
- ・アジは大丈夫か、量はどの位だったらよいのか。
  
- ・イルカ他、聞きなれない魚は、何にまじっているのか。
  
- ・水銀中毒について症状を教えてください。
  
- ・水銀蓄積を恐れ、魚を食べるのを止めることと、その他の良い点（DHA、EPA）を欠くことのどちらを優先させるか。

6 母子保健に関する指導をする立場から、「水銀を含有する魚介類等」について、国の資料（別紙1～3）を見て、分かりにくい部分や疑問に思ったことなどがありますか？あれば具体的な内容（質問等）を記載してください。

- ・摂食に関する注意事項の内容について、日常よく食べる魚の安全性について、詳しい説明のある方がよい。
- ・60g～80g等の表現から、具体的に1切れなのか2切れなのか、日常生活上にかみくだいて説明できた方がと感じた。
  
- ・マグロについて、1日の摂取量21gは少なすぎるのではないかと。また、他の魚に比べて摂食者が多いにも関わらず、なぜ対象から外れたのか。
- ・マグロについては摂取頻度が高く、水銀含有量があまり多くなくても、むしろ摂取量が多く、摂取頻度の低い魚と同程度の危険性が考えられるが、今回指定から外れているのがわかりにくい。
- ・Q&Aでもマグロを除外した理由が不明瞭である。
- ・マグロに関しての説明がわかりにくい。説得力に欠けるという印象がある。
- ・マグロの算定の仕方が悪い。一般に食べる量、実生活に即した量で算定して欲しい。

- ・Q&A で、マグロの水銀量が多いにも関わらず対象外になった理由の説明がわかりづらかった。
  - ・マグロの摂食状況量。マグロのメチル水銀濃度が高いが、注意の対象とならなかった理由として、摂食量を 21g として計算したことに疑問。主菜としてのマグロは 60g ~ 120g と考えられる。
  - ・テレビでも取り上げられていたが、魚介類等の 1 日摂取量のマグロの量は疑問である。
  - ・摂取量の目安が g 表示だけではわかりにくい。マグロについては、摂取量はかなり差がみられ、人によっては多量摂取することも考えられる。除外のみでなく、摂取の目安を表示することも必要と考えられる。
  - ・マグロの安全性に疑問を持った。マグロを多食する日本人へのリスクに不安を持った人も多かった。
- ・魚の種類別データと注意すべき魚との関連。妊婦のみでいい理由
  - ・注意事項にあがっている種類以外の魚介類の含有データについて
- ・対象となる魚とその調理例について（バンドウイルカなどは実際に食べる機会が少ないが、カジキマグロやキンメダイなどの食べる機会の多い魚については、魚の実物や調理例などが結びつかない人もいるのではないかと。そういったことも情報提供に加えた方が良いと思う。）
  - ・一般家庭の食卓にはあまりのらないバンドウイルカ、クジラ、サメまでも摂取できる量が指定されていたことに疑問がわいた。むしろ、マグロの方が気にかかる。
  - ・バンドウイルカはどのような食べ方をするのか。例えばすり身に混ざっているとかはないのか。特別な料理店に行かなければ食べられないものなのか。
  - ・サメ、イルカ等は、どんなものに使われているのか。
  - ・実際にイルカやサメなどがどのような加工品に含まれているのかが分かりにくい。食品成分表にもバンドウイルカについては、見当たらない。
  - ・キンメはどこでも食べている魚だと思うが、バンドウイルカやサメ、クジラなど普段食べない魚ばかりでありあまりにも現実離れしていた。
  - ・普段口にしないイルカ等が取り上げられていて理由がわからなかった。
- ・検体となった魚はどこから手に入れたものか。市場に出回っているものか。どこでとれたものか。日本近海のもの少ない現状を考えると、海外の海で取れたものが多いと考えられるが。
  - ・検体の数が魚によってかなり差があるように見えた。どの海域の検体かが不明のままだった。
- ・資料としてはわかりやすかった
- ・肉類と違い、魚は種類も多く、特定のものを摂食することはあまりないので、取扱い自体に困った。
  - ・水銀が胎児に及ぼす健康被害について、具体的に記載がなかった。
  - ・深海魚と水銀の関係について、明確に記されていない。
  - ・通知文中「妊娠されている方、又はその可能性がある方」とあるが、可能性がある方とは 10 歳代 ~ 30 歳代位の女性全てと考えてよいのか。
  - ・なぜ今、この問題がでたのかわかりにくい。
  - ・説明の中で「すべての魚介類等に多少の含有がある」といったことにより、妊婦は不安がっていたが、「正しい理解のために」の内容に基づき、詳しく説明をしておいたところ、それほどの不安は解消され、納得していただけた。
  - ・水銀の他に、ダイオキシン、PCB、カドミウム、養殖魚の抗生物質の心配はどのようだろうか。

7 6の質問で分かりにくい部分や疑問に思ったことなどがあった方にお聞きします。その内容を理解するために、何か調べる等の方法をとりましたか？その方法を具体的に記入ください。

- ・ホームページで関連記事等の検索を行った。(6)
- ・文献(海外のもの、水俣病、水銀、公害など)を調べた。(3)
- ・日本テレビの報道番組、テレビでの特集(2)
- ・同じ職場や他の職場の栄養士などに聞いた。(2)
- ・献立ごとの水銀を含有する魚介類等の使用量を検証した。

8 住民の方から、この公表があった後、魚を食べるのを減らしているという話を聞きましたか？

複数から聞いた	あまり聞かなかった	全く聞いていない
14	29	26

9 今後、このような情報を住民に周知する場合に、どのような方法で行うといいと思いますか？具体的にご記入ください。

- ・テレビ、新聞、ラジオなどによる報道(5)
- ・周知の速度、規模を考えれば、テレビ、新聞等が良いと思われるが、誤解のない周知のために、注意が必要である。今回の場合、国からの情報よりもマスコミの情報が早くかつ広く伝わり、保健所等でも若干の混乱があった。
- ・情報化社会なので、マスコミ関係を活用するとインパクトが強いと思われる(ただし、誤解を招くような極端な表現にはくれぐれも注意する)。
- ・一般報道機関での周知。摂取量が多量でないものは、いたずらに危険をあおることなく、住民に対して冷静に対処する情報にしてほしい。
- ・広範囲に周知するには、テレビや報道や妊婦向けの雑誌に掲載する。
- ・国がマスコミを使ってきちんとやってほしい(健康増進法のタバコみたいに)。
- ・政府の公共広告という形でテレビ、ラジオで放送することが一番周知の効果が高いのではないか。いわゆる健康情報番組に時間をもらって、政府が説明するのもよいのではないか。
- ・新聞記事、テレビニュース等(住民の方が一番自然に受け入れやすい)
- ・テレビ、新聞等マスメディアを利用して発表するとともに、ホームページも有効である。
- ・やはりマスメディア(テレビ)や新聞で箇条書きに。年配者でも分かりやすくして欲しい。あまり文章を細かく記さない方がよい。
- ・プレス発表と同時に行政に対しても速やかに情報の周知を望む。
- ・国からの通知によりマスコミ報道の方が早く、区民から早速問合せがあった。マスコミ報道で一般区民に情報を流す前に通知があれば助かる。
- ・プレス発表の前に調査法、結果を含めた資料がほしい。区民向け配布用リーフレットを作成し、プレス発表と同時に周知する。時差があると、情報が混乱するため、周知時期は重要。
- ・テレビ等の報道前に関係機関への情報提供などを希望(現場での対応が遅れるので)
- ・テレビ、新聞等のマスコミに周知する場合は、それに先立って保健所等に情報をいただきたい。過剰な不安をあおらないような表現に注意し、マスコミ等に情報提供してほしい。
- ・保健所等、区市町村の住民と接する第一線機関に早く情報を提供する。
- ・住民に対しての方法は、メディアが最も早くて良いと思う。誤解のない内容で。今回の情報は、新聞、テレビ等が先に入ってきて、国からの通知情報がだいぶ遅くて、ハラハラした。せめてインターネットに出ているので開くようにという情報だけでも速やかに流して欲しいと感じた。
- ・文書よりもテレビなどの情報が早いことが多いので、できるだけ早く適確な情報を知りたい。

- ・今回の通知が、市に届いたのはだいぶ日が経ってからでした。逸早い通知をお願いしたい。周知方法としては、報道の利用（テレビ、新聞、市報）
- ・「正しい理解のために」を6月3日と同日に出すとよかったのではないかと。国の資料が届く前にテレビで知った。翌朝には、問合せがある場合があるので、なるべく早く市の窓口で情報が欲しい。
- ・テレビ、新聞等は大変影響が多大。情報は早く住民に伝えることは必要。フォローができるよう行政機関へは事前に周知してほしい。
- ・一般の人にもわかりやすいパンフレットの配布（ホームページの掲載、定期的な調査であれば情報も更新していく。）（2）
- ・窓口掲示、配布用のポスターやチラシを望む。（2）
- ・母子健康手帳サイズのパンフレットを作り、妊婦さんに配布。パンフレットを作り、公的機関だけでなく、スーパー等食品を販売している所にも配布する。
- ・質問があった際に対応する、それでも疑問点が残る場合は保健所等を紹介し、問い合わせをもらう（むやみに周知しすぎることによって魚離れになっても困る。「魚を食べること」は日本文化の伝統であるし、守っていくための教育も大切だと思う。）。
- ・産院でのポスター掲示、テレビコマーシャル（公的な）
- ・健康に影響がそれほどないようなものは、それを周知した場合の住民の反響を考えた上で、報道すべきか否か検討し、周知した方がよい（報道しない方がよいものはしない）。
- ・妊娠前からの情報提供が難しいと思う。いろいろなサイトでは、イギリスやアメリカの摂取基準ものせていて、それらも含めて摂取を考えていくという書き込みも多く、他国と日本の基準の違いも、細やかな情報提供が必要
- ・新聞、マスコミ等を通じて、正しく具体的な情報を伝えると共に、広報誌等を利用してはどうか。（3）
- ・正確、より生活に即した内容ならば、母親学級や母子手帳交付時にリーフレットを渡す。
- ・保健所に正確でわかりやすい情報を提供してほしい。
- ・マスコミへの公表と国や都のホームページへの掲載
- ・母親学級での説明、市の広報等の掲載
- ・今回の場合は、お産を扱う場所（病院、医院、助産所）の職員からの指導や周知があれば、一番漏れがないと思った。
- ・講習会などで情報提供
- ・現行のままでよい。（2）
- ・今回のような形で良いと思う。場合によっては、わかりやすいパンフレットや教材があるといいと思うが小さい町なので、少ない部数でよい。
- ・行政通知は、管内の病院の栄養士に送り感謝された。保育課の栄養担当にも送付。
- ・厚生労働省のホームページ
- ・魚を食べること自体に不安を感じた人が多かったようなので、安全な食べ方をより強調して伝える通知の方がよかったのではないかと。マスメディアを活用して正しい情報を流して欲しい。